

# はばたき

男と女がともに歩む情報紙 第50号

平成27年12月発行

企画・発行/海老名市市民活動推進課

人権男女共同参画係

TEL: 046-235-4568【直通】



## 女性が輝く職場

えびな南高齢者

施設を訪問

市内5つの施設で介護サービスを実施している社会福祉法人中心会。

職員の約7割が女性である職場では、職員が子育てや介護などの家庭環境に合わせて柔軟に働くことができるさまざまな工夫が行われていきます。

今号では、市民から公募した男女共同参画推進員が、中心会のえびな南高齢者施設を訪問し、施設長や子育て中の職員にインタビューした様子を中心に紹介します。

次頁参照!

インタビュー結果は、

## Interview

# 自分以外の人が働きやすい 職場は自分も働きやすい職場

えびな南高齢者施設長 荻窪かほりさん



介護の仕事を始めたきっかけは？

前職は営業職でしたが、今後の人生を考えた時に、仕事について悩むようになりました。

たまたま、友人が介護の仕事をしていたので、話を聞いてみるうちに興味を持つようになり、思い切って退職を決意。職業技術学校に通い、ヘルパー1級の資格を取ってから中心会に入社しました。

職場の雰囲気は？

近年、男性職員の割合が増えてきましたが、7割近くが女性職員です。

妊娠中の職員は、食事の世話やリネンの交換など、体に負担がかからない仕事を担当してもらい、フォローし合いながら働いています。男性職員も体調を崩すことがあるので、状況に応じて思いやりを持って働くことが必要です。自分以外の人が働きやすい職場は、自分にとっても働きやすい職場だと思いません。

子育てや介護をしながら働くことはできますか？

【休業制度】

中心会では、出産や育児・介護に伴う休業制度を正規・非正規職員問わずに利用することができます。

過去3年間（平成24年度から26年度まで）の出産や育児に伴う休業制度の取得状況は100%で、7人が利用しています。現在も2人が育児休業中です。

【勤務制度】

家庭環境などに合わせて柔軟に働き方を選ぶことができず。育児や介護などにより、フルタイムで働くことができない場合は、正規職員から非正規職員になり、育児や介護が落ち着いたときは、再び正規職員に戻ることができず（下図参照）。また、正規職員で役割に付いている場合でも、家庭環境などに応じて役割を離れ、元に戻ることができません。

非正規職員

固定勤務制

育児や介護などで、フルタイムで働くことが困難…  
決められた時間で働きたい！

育児や介護などが落ち着き、フルタイムで働きたい！

正規職員

フルタイム  
シフト制

# 子育て中の職員に聞く！

## 推進員による実態レポート

**上司の言葉が励みになり、働き続けることができた**

北尾さんのケース

相談員として正規職員で勤務していましたが、子どもを産みたいと考え、職種を契約職員に変更しました。出産後は、9ヶ月間育児休業を取得し、子どもが保育園に入園するタイミングで復職しました。

相談員の時は、退職を考えたこともありましたが、上司に相談したところ、「職種を変えて自分のペースで働いてみないか」と勧められ、契約職員の道を選びました。

正規職員に戻るときも、上司から「全力で守るから大丈夫だよ」と優しく声を掛けられ、とても励みになりました。周囲のフォローがあるからこそ、中心会で働き続けることができています。



▲ケアマネとして活躍する北尾さん

**いつまでも働き続けたい職場です**

半澤さんのケース

8歳と5歳の子どもを育てながら働いています。1日の流れは、子どもを保育園に送ってから出勤し、8時30分から17時30分までまたは、9時から18時まで働き、子どもを迎えに行ってから帰宅します。残業があるときもあるので、子ども



のお迎えは、両親に協力してもらうこともあります。

1人目の育児後は短時間勤務を利用しましたが、2人目の育児後は会社の制度が変わったため、有給休暇を活用しています。中心会では、年3回7連休を取得できる有給休暇制度があります。子どもが小学校に入学するまでは、切り崩して使用できます。保育園の行事や子どもの体調に合わせて使用することができ、助かっています。

働きやすい職場なので、いつまでも働き続けたいです。



▲介護保険の案内をする半澤さん

## 推進員の声

今回の視察で一番驚いたことは、施設長の35歳という若さ！

女性が多い職場であるためか、妊娠・子育て・介護などの時期も、柔軟な勤務体系で働き続けることができる仕組みが整っていることが特徴的でした。女性が働きやすい職場は、男性にとっても働きやすい職場です。

明るい雰囲気や清潔感がある施設では、利用者と職員が笑顔で挨拶を交わっていました。視察を通し、職員の方々の仕事への愛着も伝わってきました。



▲左から、福田推進員、滝口推進員、佐藤推進員

# 朗読舞台「ひまわり

## ～DVをのりこえて～

家族や恋人のことを考えよう！



DV（ドメスティック・バイオレンス）被害の実情やDVを乗り越えるまでの感動のストーリーを実話に基づき、朗読劇でお伝えします。

DVは、既婚女性のうち4人に1人が配偶者から被害を受けている（内閣府の調査結果による）とされるほか、近年若い女性の間でもデート中の被害が増えているとされています。被害の実情を知り、家族や恋人、自分自身について考えるきっかけとして、ぜひご参加ください。

- ▼日 時 12月19日（土）13時30分～15時
- ▼会 場 リコー フューチャーハウス2階ホール1  
（扇町5-7、JR相模線海老名駅西口から徒歩約3分）
- ▼対 象 市内在住・在勤・在学の方
- ▼定 員 先着100人
- ▼出 演 市民劇団オンリーワン
- ▼費 用 無料
- ▼申し込み 氏名・電話番号を電話で「気づいて！DV実行委員会」（原070-5559-1439）へ。ファクス（046・232・3062）での申し込みもできます。
- ▼応募締切 12月17日（木）
- ▼保 育 12月10日（木）までにお申し込みください。
- ▼そ の 他 駐車場はありませんので、公共交通機関でご来場ください。
- ▼主 催 「気づいて！DV」実行委員会
- ▼協 賛 海老名市

### 今号のキーワード「メディアリテラシー」

私たちの身の回りには、新聞や雑誌、テレビ、インターネットなどたくさんのメディアがあり、無意識のうちに多くの影響を受けています。

例えば、台所用洗剤のCMでは、女性が食器を洗っているシーンを多く目にしませんか。この映像を繰り返し見ているうちに、「台所の後片付けは女性の仕事」といった男女の役割分担イメージを無意識のうちに植え付けられてしまっていることがあります。

このように、メディアに左右されず、正しい情報を判断する能力を身につけることが大切です。この能力のことをメディアリテラシーといいます。